

連載

# 92 在宅医療奮闘記

平成7年より  
在宅を開始した

私の思い出

(医)東西会 千舟町クリニック院長

橋本 満義 (66歳・内科)

人工呼吸器装着を要する患者も、在宅(自宅・施設)療養を可能にした、  
高度な医療機器開発による時代の底力。



最近、高度な呼吸管理を要する患者さんも、病院を退院し、条件付きではありますが、在宅(自宅・施設)療養が可能となりました。医学、そして医療機器の日進月歩の技術革新には目を見張るものがあります。

10年前のある日、重度な筋萎縮性側索硬化症のため、人工呼吸器の装着が必要である患者さんを在宅医療できないかという相談を受けました。しかし、夜間も

含め24時間365日の高度な在宅呼吸管理は、当時のマンパワーと医療機器機能レベルでは、対応がとても困難だったのです。

現在では、慢性閉鎖性肺疾患や神経筋疾患(障害)などに対し、以前より比較的簡単に操作できる医療機器を健康保険で利用できるようになりました。おかげで、在宅医療で通常の対応ができています。

ですが、やはり在宅医療には、合併症の問題や感染症による病状急変などといった不安定さは今後も続きます。だから

こそ、病診連携の地域包括ケアシステムに大きな期待が集っているのです。

将来に向けて、厚生労働省から「保健医療2035」が提言されました。

すべての生命体が自然界のセンターであれば、社会のオピニオンリーダーの一角を、「命の番人」である医療人(24時間・365日見守る)が担うべきです。それは心身ともに苦勞を強いることとなりますが、当事者は宿命として、矜持とすべきでしょう。

「お医者さんが来てくれる」

24時間・365日態勢で対応(松山市全域)

私たちは質の高い在宅医療・看護・介護を目指しています。



医師数 21名  
(常勤6名、非常勤15名)

内科・外科専門医 18名  
(国立がんセンター勤務歴有3名)

精神科専門医 2名  
麻酔科専門医 1名  
(ペインクリニック科)

末期がん治療(緩和ケア)  
相談室開設!

Hyper Blood Viscosity (高血液粘度群)を科学する 臨床生命科学(体質・病態学、栄養学)研究所開設  
「地方創生健康長寿研究会」平成27年4月1日発足

機能強化型・有床 在宅療養支援診療所

(医)東西会 千舟町クリニック

松山市千舟町6-4-9 Tel:089-933-3788

<http://www.touzaikai.jp/>